令和８年度 第１回 嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会　会議録

１　審議会等の名称　　令和８年度　第１回嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会

２　開催日時　　令和８年１１月９日　月曜日　午後６時３０分～

３　開催場所　　碓井庁舎　３階　研修室１

４　公開又は非公開の別　公開

５　非公開の理由（会議を非公開とした場合のみ）

６　出席者

（１）委員

会　長　伊東新治

委　員　大里雄一郎委員、日野真吾委員、田中幹委員、坂田続穂委員、大淵豊委員、林利治委員、高城将昭委員、松原正信委員、稲冨哲市委員

（欠席）友松竜治委員、福嶋未央委員

（２）事務局

学校教育課長　近藤暢威　学校教育課参事　井上　剛　学校教育課付係長　村中　裕

（欠席）学校教育課教務係　山本昌美

７　傍聴人数（会議を公開した場合のみ）　　０人

８　議題及び協議の内容

【議題】

家庭学習の取組について（公開）

【協議の内容】

家庭学習の取組について（公開）

協議の柱：家庭学習の充実に向けて、学校、家庭、教育委員会ができることについて

本年度の嘉麻市の学力の実態と、学力向上のための取組、嘉麻市の家庭学習実態について説明し、協議した。

《主な説明内容》

（１）嘉麻市の学力の実態について

○　令和８年度の全国学力・学習状況調査の結果

・小学校・義務教育学校前期課程：９６．２ポイント（全国を１００とする）

・中学校・義務教育学校後期課程：８１．７ポイント（全国を１００とする）

○　令和８年度全国学力・学習状況調査の国語、算数、数学の四分位層の状況

・小学校・義務教育学校前期課程の国語科においては、ＣＤ層の割合が全国に比べると多い

・小学校・義務教育学校前期課程の算数科においては、ＣＤ層の割合が全国と同等

・中学校・義務教育学校後期課程の国語科においては、ＣＤ層の割合が約６割と多い。

・中学校・義務教育学校後期課程の数学科においては、ＣＤ層の割合が約７割と多い。

（２）学力向上のための取組について

○　嘉麻市の学力向上のための取組

・単元テスト等による短いスパンでの評価・改善

・組織的な授業改善

○　県・市の研究発表の開催

・令和７・８年度嘉麻市教育委員会研究指定・委嘱の研究発表会の実施

（嘉麻市立稲築西義務教育学校）

・令和７・８・９年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業の実施

（嘉麻市立碓井義務教育学校）

○　嘉麻市土曜未来塾の実施

・対象者や内容、参加者の増加に向けた教育委員会の取組（参加者数１２４名）

○　嘉麻市放課後英語塾の実施

・対象者や内容、参加者の増加に向けた教育委員会の取組（参加者数５１名）

○　英語検定団体受験の実施

・３級受験者２０名（一次合格者１９名）、４級受験者１３名（合格者８名）、５級受験者１３名（合格者１１名）

（３）家庭学習の状況について

○　全国学力・学習状況調査の質問紙の結果について

・小学校・義務教育学校前期課程においては、平日の家庭学習の時間は全国平均よりも長いが、土日の家庭学習の時間は全国を下回っている。

・中学校・義務教育学校後期課程においては、平日、土日ともに全く家庭学習をしない生徒の割合が全国の平均より多い。

○　「家庭学習のすすめ」について

・嘉麻市ＰＴＡ連合会、嘉麻市小・中・義務教育学校、嘉麻市教育委員会の連名で配付している「家庭学習のすすめ」の活用方法についての説明

《主な協議》家庭学習の充実に向けて

（1）各学校での家庭学習の取組について

○　稲築東義務教育学校：家庭学習の徹底（逃がさない）を図ったり、家庭の状況で家庭学習の量を調整したりしている。また、学力向上コーディネーターが家庭学習の提出率等をまとめ、学校全体で把握している。

○　嘉穂中学校　　：朝学習や学習コンクール等と家庭学習を連携させて取り組んでいる。また、生徒会活動と連動し、自己調整能力の向上に努めている。

○　稲築西義務教育学校：自学ノートコンテスト実施し、家庭学習の定着や価値づけを行っている。

○　山田中学校　　：家庭学習については各教科任せになっていることが課題である。そのため、次の日の授業の学習内容を予習する（教科書を読む）取組を進めていく予定である。そして、自分で勉強できる習慣をつけていく。

○　碓井義務教育学校　：国語、算数プリントと漢字ノート、自学ノートの取組を学校全体で行っている。

（2）ＰＴＡより家庭での学習の様子と願い

○　「わからないからやらない」とならないような家庭学習であればよい。

○　家庭も家庭学習をさせることは負担に感じている。

○　親としては苦手なことに取り組んでもらいたい。

○　習い事をしているので、家庭学習の時間を確保するのが大変である。

○　タブレットドリル等で個に応じた内容の家庭学習であればよい。

（3）筑豊教育事務所より他校の実践例の紹介

○　何のために家庭学習をするのかを子どもたちに教え、達成感や満足感を得られる家庭学習にする必要がある。そのために、自学ノートをテストに持ち込ませる取組をしている学校もある。

（4）嘉麻市教育委員会としての方向性

○　土曜未来塾の内容と良さの周知をするために、ＰＲ活動の充実を図る。

○　個別最適な学びができるために、ＩＣＴ活用の充実を図る。

９　配付資料

レジュメ、説明資料